

2023 年度私立大学図書館協会東地区部会
館長会 会議録

日 時：2023 年 6 月 9 日（金）10：00～11：00

方 法：Web 会議（帝京大学）

主 催：私立大学図書館協会東地区部会長校 帝京大学メディアライブラリーセンター

テーマ：これからの大学図書館を考える

司 会：東地区部会長校 帝京大学メディアライブラリーセンター 山下 智美

出席者：45 名（45 校）

配付資料

- 1 講演資料「これからの大学図書館－アメリカのトレンドから」

議 事

1 開会挨拶

東地区部会長校 帝京大学メディアライブラリーセンター 山下 智美より、開会の挨拶があった。

2 館長挨拶

東地区部会長校 帝京大学メディアライブラリーセンター図書館長 木村 友久より、挨拶および趣旨説明があった。

3 講 演

「これからの大学図書館－アメリカのトレンドから」

講演者：帝京大学共通教育センター准教授 上岡 真紀子 氏

概 要：別紙、講演資料スライド参照

4 意見交換

<明治学院大学 助川 哲也 図書館長>

大学図書館を取り巻く状況について、トレンドに日米の差はほとんどないということだが、その後の実装の部分では日本の大学は大きな問題を抱えているとの話があった。どの大学も共通していると思うが、欧米の電子ジャーナルは非常に値上がりをしており、なおかつ極端な円安も伴って、現在もポンド高やユーロ高により非常に予算が立てにくいという現状がある。電子ジャーナルの価格交渉において、アメリカではカリフォルニア大学なども含めて電子出版社との戦いがあると同ったが、値上がりを続ける電子ジャーナルやロシア・ウクライナの問題等に対して、日本の大学ではどのような対応が考えられるのか教えていただきたい。

<講演者 帝京大学 上岡 真紀子 氏>

今は若干、力関係で出版社の方が強いので、それをひっくり返すことは難しいという
ような報告も出ている。日本の大学と出版社が交渉する時にも、あまり強気な交渉がで
きない状況だと思うが、アメリカは割と強気で戦っている部分もあると思う。というの
も、アメリカの予算が大きいということもあるが、長らく価格交渉を続けてきた相手だ
ということもある。日本はビッグディールのキャンセルとなると、横の連携等もまだバ
ックアップするような体制も国内にないと思うので、「キャンセルすること＝研究ができ
なくなる」ということに直結すると思う。日本の大学としては、どこかもう少し大きな
ところで私大図協も含め、国も交えて議論が必要なのではないだろうか。

以上

これからの大学図書館 アメリカのトレンドから

2023年度私立大学図書館協会東地区部会館長会
2023年6月9日（金）10：00～10：45
帝京大学共通教育センター
上岡真紀子
mueoka@main.teikyo-u.ac.jp

はじめに

- 大学図書館を取り巻く状況について、アメリカを事例にお話しします。
- 目的は、館長会における情報共有と意見交換のための材料としていただくことです。

『Environmental Scan』と 『Top Trends』

- 米国図書館協会の大学部会である、カレッジ・研究図書館協会（Association of College and Research Libraries：ACRL）が隔年で交互に発表。
- 高等教育における主要なテーマやトレンドと、それらが大学図書館に与える潜在的影響について、過去2年分の動きをレビューしたもの。
- もとは、ACRL理事会が戦略計画と重点項目を決定するための資料。
- 現在では、広く会員（大学図書館員）の経営的判断・さまざまな意思決定に資することも目的とされている。

『Top Trends』 過去12年間の見出し

2012	2014	2016	2018	2020	2022
学術コミュニケーション イメージ	デジタル・ヒューマン イメージ	デジタルスタック	学術とベンチャーの経済	オープンアクセス・権利 管理	学術とオープン化する
データキュレーション	高等教育におけるオープン データの発展	遠くコンテンツがハイ パフォーマンスの デジタルファイルメントの 名前	オープンアクセスと学術 の関係をシームレスに 統合する	Research Data Servicesの発展と標準	データ
デジタル保存	デジタルメトリクス	研究データサービス (RDS)	研究データセットの デジタルライティング、 データサイエンス、 データ	学術的、資料的 (リ サーチ) データサイエ ンス、資料的データ 管理	COVID関連の動向
知識を伝える	データ	データ駆動型サービス 管理	デジタルニュースと情報リ テイク	学術的ジャーナル サービス	学術的利用
学術的、学術的 デジタルライティング のライキュレーション	学術的効果	アルトメトリクス	研究データ、データ収集、 情報	研究分析	学術的ジャーナル サービス (学術的、学術的)
学術的テクノロジー	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
モバイル環境	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
ユーザーの行動と期待	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
人員配置	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する

『Environmental Scan』 カテゴリ分け

- 高等教育の動向
 - 学術コミュニケーション、およびデータサービス
 - コレクション管理・開発
 - テクノロジーの動向
 - 教授・学習
 - マネジメント

カテゴリによる色分け

2012	2014	2016	2018	2020	2022
学術コミュニケーション イメージ	デジタル・ヒューマン イメージ	デジタルスタック	学術とベンチャーの経済	オープンアクセス・権利 管理	学術とオープン化する
データキュレーション	高等教育におけるオープン データの発展	遠くコンテンツがハイ パフォーマンスの デジタルファイルメントの 名前	オープンアクセスと学術 の関係をシームレスに 統合する	Research Data Servicesの発展と標準	データ
デジタル保存	デジタルメトリクス	研究データサービス (RDS)	研究データセットの デジタルライティング、 データサイエンス、 データ	学術的、資料的 (リ サーチ) データサイエ ンス、資料的データ 管理	COVID関連の動向
知識を伝える	データ	データ駆動型サービス 管理	デジタルニュースと情報リ テイク	学術的ジャーナル サービス	学術的利用
学術的、学術的 デジタルライティング のライキュレーション	学術的効果	アルトメトリクス	研究データ、データ収集、 情報	研究分析	学術的ジャーナル サービス (学術的、学術的)
学術的テクノロジー	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
モバイル環境	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
ユーザーの行動と期待	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
人員配置	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する
	デジタルライティング サービス	デジタルライティング サービス	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する	学術的サービスと学術 の関係をシームレスに 統合する

学術コミュニケーション

7

学術コミュニケーション Scholarly Communication

2012	2014	2016	2018	2020	2022
学術コミュニケーション	デジタル・ヒューマン・サイエンス	デジタルスタック	投稿者とベンダーの状況	オープンアクセス「選択」	全てをオープンにする
学術コミュニケーション	高等教育におけるオープンアクセスの進化	ES&Oコンセンサスレポート「デジタル・インフラメント」の発表	Research Data Services(RDS)の出現と成長	Research Data Services(RDS)の出現と成長	データ
デジタル保存	デジタルリポジトリ	研究データサービス (RDS)	研究データセットの取得、保存、共有、マイニング、データサイエンス	社会主義、批判的（クリティカル）、マイニング、シミュレーション、解放的デジタルリポジトリ	COVID関連の動向
知識管理	データ	デジタルリポジトリとデータ管理	デジタルリポジトリとデータ管理	学術の未来（フェューチャー）	メーソール
教育開発、アクセシビリティ	学術の未来	デジタルリポジトリ	学術の未来、データ管理、学術の未来	学術の未来	学術の未来
「研究」の未来の展望	デジタルリポジトリとデータ管理	学術の未来、学術の未来	学術の未来、学術の未来	学術の未来	学術の未来
機関リポジトリ	デジタルリポジトリとデータ管理	学術の未来、学術の未来	学術の未来、学術の未来	学術の未来	学術の未来
モバイル環境	デジタルリポジトリとデータ管理	学術の未来、学術の未来	学術の未来、学術の未来	学術の未来	学術の未来
ユーザーの行動と期待	デジタルリポジトリとデータ管理	学術の未来、学術の未来	学術の未来、学術の未来	学術の未来	学術の未来
出版	デジタルリポジトリとデータ管理	学術の未来、学術の未来	学術の未来、学術の未来	学術の未来	学術の未来
	デジタルリポジトリとデータ管理	学術の未来、学術の未来	学術の未来、学術の未来	学術の未来	学術の未来
	デジタルリポジトリとデータ管理	学術の未来、学術の未来	学術の未来、学術の未来	学術の未来	学術の未来
	デジタルリポジトリとデータ管理	学術の未来、学術の未来	学術の未来、学術の未来	学術の未来	学術の未来

8

2013,2015,2017版： 学術コミュニケーション

- 検索行動と期待されること
 - 利便性と即時アクセス
- 新しい出版形態とキュレーション、普及活動
- **オープンアクセス (OA) の推進**
 - 出版社としての大学図書館
- 機関リポジトリとサブジェクトリポジトリ
 - 米国ではIRへの寄託率が低い。50%以下で推移
 - 研究者は機関よりも分野への帰属意識が高く、分野別リポジトリへの寄託傾向が強い。
 - サブジェクトリポジトリは収益化される危険性：
例) 2016年エルゼビアがSSRNを買収。

9

2017版：オープンアクセスと コレクションマネジメント

- **論文掲載料：Article Processing Charge (APC)**
- **APCの需要とコストは図書館予算を上回っている。**
- マックスプランク協会、2015年「OA2020白書」学術雑誌の資金調達のための反転モデル（購読料の代わりに論文処理料を支払う）を提案。
- カリフォルニア大学デービス校、2016年の「ベイ・イット・フォワード研究」で、助成金提供機関などの外部パートナーに依存すれば実現可能であると結論したが、これに対する多くの批判が存在する。
 - APCは変動が大きく、APCに「真の」コストは存在しない。
 - 相当な時間と労力が必要。
 - 知的コンテンツのコントロールという点で、ジャーナル出版の「現在のパワーバランス」を変えることは難しい。

10

2019版： 学術コミュニケーション

- **ビッグディールのキャンセル**
 - 持続不可能な価格上昇
 - 品質の低いパッケージコンテンツ
- コミュニティが所有するインフラと機関リポジトリ
 - 2017年エルゼビアがbepress（北米の機関リポジトリにおける最も支配的製品デジタルコモンズとサービスプロバイダー）を買収

11

2015,2017版： 研究データサービス

- **米国政府・資金提供機関の方針への対応**
- 2013年米国科学技術政策局 (OSTP)：
 - 「連邦政府が資金提供した科学研究の成果へのアクセスを増加させる」
- データ管理サービス：図書館員の新たな専門領域
- **データサービスライブラリアン、データライブラリアンの配置**
 - G Wobach LibraryとHarvard Library：図書館員のためのデータサイエンストレーニング科目の提供開始
 - IMLS（博物館・図書館サービス機構）：データ情報リサーチプロジェクト（モデル事業）を支援
 - New England Collaborative Data Management Curriculum：医学図書館、海洋研究図書館などが参加

12

2013版： ラディカルコラボレーション

- テクニカルサービス
- コレクション構築とリソース共有
 - HathiTrust, インターネットアーカイブ
 - 迅速なILL：仲介のないILL
 - パトロン主導の収集計画の共有化
- **大規模地域プリントリポジトリ**

19

2015版：図書館のコレクションと アクイジション

- **電子書籍は未だ流動的**
 - 予測されたほどスムーズには広がっていない
 - 理系であっても、5年以内にハードコピーが不要になるという教員は15%。
- ストリーミングメディア・ビデオ
 - **教育および研究のための再利用**に対する制限と**図書館による永久的な権利の所有**について交渉。
 - 帯域幅のニーズの増加等に対応。
- デマンド・ドリブン・アクイジション
 - * DDA (データ駆動型), PDA (パトロン駆動型) :
 - 出版社による貸出価格の引き上げが行われていることから持続可能性は疑問。
- コレクティブ・コレクションのキュレーション/共同プリント・マネジメント
 - **共同プリントリポジトリの広がり**
 - コレクション評価として何をどこまで含めて評価すべきか、比較のための基準の必要性

20

2017版：コレクション評価, 分析

- **コレクションアナリスト, ストラテジスト,**
アセスメントのポジションが主流に。
- コレクションの評価・分析がスタッフの時間のかなりの割合を占めている。

(国内) 慶應義塾

- <https://www2.lib.keio.ac.jp/publication/medianet/article/pdf/02900090.pdf>

21

2021版：コレクション&アクセス サービス

- **新型コロナによるアクセス問題への対応**
 - 2020年3月ほとんどの教育機関が遠隔授業に切り替え。
 - 多くのベンダーが一時的に無償で電子教材にアクセス可能にすることで対応。
 - **米国とカナダの教育機関の50名以上の著作権専門家グループが「図書館が緊急遠隔教育のために電子教材を利用可能にする際、ウェアライズドコンテンツを多く依存するよう奨励する公的声明」に署名。**
 - 電子教科書の制限つきライセンスの問題が増加。
 - 商業出版社との関係への批判。「彼らの出版物の電子教科書版を購入しない」出版社名を挙げた声明。ケルブ大学、クランドバレー州立大学、カリフォルニア大学、ロチェスター大学などが賛同。
- オープンエデュケーショナルリソース
- **管理されたデジタル貸出 (CDL)**
 - 図書館がそのコレクションにあたる物理的なタイトルの代わりに、デジタル化されたタイトルを管理された方法で合法的に流通させることができるというもの
 - Author's Guildはいかなる形の CDLにも反対の立場
- ライセンス交渉とビッグディールの中止、転換契約

(国内) Wiley /4大学 <https://current.ndl.go.jp/e2505>

22

2023版：図書館コレクション

- **加速する電子書籍・デジタルコレクションへのシフト**
 - 電子書籍の購入54% (2020) から69% (2021) へ。EBA, DDAモデルの利用が増加。
- **ダイバーシティオーディット**
 - DEJAの観点からコレクションを評価し、収集プロセスを改善。
- **管理されたデジタル貸出の動き**
 - メロン財団が、全米情報標準化機構(NISO)に資金を提供し、CDLに関する推奨慣行の策定を支援。
 - インターネットアーカイブは裁判中。
- オフサイトストレージ・シェアードプリント・コレクティブコレクション

23

テクノロジーの動向

24

新しい技術の動向 Emerging Technology

2023	2024	2025	2026	2027	2028
情報コミュニケーション	デジタル・ヒューマンディ ア	デジタルスタック	拡張現実・バーチャル空間	オープンアクセス：権利と 責任	次世代オープン化する
データキュレーション	実世界におけるメタデータ の進化	AIによるコンテンツの自動 メタデータ生成	オープンアクセスプラットフォーム の発展	Research Data Services(RDS)の普及と成熟	データ
デジタル保存	デジタルトランスフォーメーション の進展	デジタルアーカイブ	デジタルネイティブの生成、中 立性、信頼性、透明性	デジタル保存の進化、中 立性、信頼性、透明性	デジタル保存の進化
知識を伝える	データ	AIによるパーソナライズされた 学習	AIによるパーソナライズされた 学習	AIによるパーソナライズされた 学習	AIによるパーソナライズされた 学習
教育普及、アクセシビリティ 向上	教育の成功	デジタルトランスフォーメーション の進展	教育の成功、データマイニング、 分析	教育の成功、データマイニング、 分析	教育の成功、データマイニング、 分析
AIによる学習のパーソナライズ とAIによる教育	AIによるパーソナライズされた 学習	AIによるパーソナライズされた 学習	AIによるパーソナライズされた 学習	AIによるパーソナライズされた 学習	AIによるパーソナライズされた 学習
デジタルトランスフォーメーション	デジタルトランスフォーメーション の進展	デジタルトランスフォーメーション の進展	デジタルトランスフォーメーション の進展	デジタルトランスフォーメーション の進展	デジタルトランスフォーメーション の進展
モバイル学習	モバイル学習	モバイル学習	モバイル学習	モバイル学習	モバイル学習
ユーザー行動と期待	ユーザー行動と期待	ユーザー行動と期待	ユーザー行動と期待	ユーザー行動と期待	ユーザー行動と期待
人材開発	人材開発	人材開発	人材開発	人材開発	人材開発

25

2013版：テクノロジー

- ノートパソコン、タブレット、スマートフォン
 - BYOD
 - モバイルアプリ、デバイスニュートラル、互換性
- クラウドへの依存とモノのインターネット
 - クラウドベースサービスとITへの依存
 - パーソナルクラウドとモノのインターネット
- ビッグデータと学習分析
 - ビッグデータの可能性
 - 学習分析
 - プライバシーへの懸念

26

2015版: ディスカバリーサービス

- 統合図書館システム(ILS)/資源管理システム(RMS)の
一元化
- ユーザー主導の研究。リンクデータ、データマイニン
グ、分析ツール
 - * ユーザーエクスペリエンスの評価

27

2021版： 新しい技術

- 進化する図書館システム
 - 統合図書館システムからク
ラウドベースの図書館サー
ビスプラットフォームへ
- イマーシブ (XR/VR/AR) 技術
 - クロスリアリティ、没入型
教育・学習ツール
 - 仮想現実 (VR)、拡張現実
(AR) のための作業スベ
ースとプログラム・支援の提
供
 - 多くの企業がXR/VR/ARを
用いた教育用コンテンツを制
作。
今後市場は飛躍的に拡大する
ことが予想される。

28



2023版：新しい技術

- デジタルトランスフォーメーション
 - 普及活動から包括的变化を支援するリソースの提供などより**実質的活動へ移行**
 - 図書館職員は新しいコンテンツが必要。変化を促すのはテクノロジーではなく、デジタル技術の使い方を熟知した人材だから。
 - デジタル変革の戦略と計画を成功させるための決め手は、共に働くスキルと資源を持ち、変化をもたらすことのできる適切なチームを構成する組織の能力である。
- ラーニングアナリティクス
 - データを収集することの**倫理性**についての懸念
 - 図書館がデータおよび定量リテラシーに対するサポートを拡大する必要性が急増
- ブロックチェーン
 - 初期段階、将来の発展を導く可能性
 - LibChan: ブロックチェーンベースの分散型図書館管理システムなど
- AI
 - ChatGPT, Dall-E (画像生成・編集)
 - 図書館員は、研究、教育的介入、政策立案、このテーマに関する学祭的対話の促進を通じて、これらの課題に取り組む機会がある

29

ティーチング&ラーニング

30

教育と学習 Teaching & Learning

	2012	2014	2016	2018	2020	2022
学術コミュニケーション	デジタル・ヒューマン・ラーニング	デジタルカレッジ	距離とバーチャルの関係	オープンアクセス：書籍とデータ	オープンアクセス：書籍とデータ	オープンアクセス：書籍とデータ
ラーニングデザイン	学習者に合わせた学習の最適化	混合コンテンツハイブリッド学習の最適化	オンライン学習と対面学習の統合	Research Data Behavior(RODS)倫理と成熟	ラーニング	ラーニング
デジタル保存	デジタルリソース	研究データサービス (RDS)	研究データサービスの最適化	研究データサービスの最適化	研究データサービスの最適化	研究データサービスの最適化
知識を伝える	ラーニング	ポッドキャストデータ管理	ポッドキャストデータ管理	ポッドキャストデータ管理	ポッドキャストデータ管理	ポッドキャストデータ管理
研究家・学術コミュニティのエンゲージメント	研究家のエンゲージメント	研究家のエンゲージメント	研究家のエンゲージメント	研究家のエンゲージメント	研究家のエンゲージメント	研究家のエンゲージメント
ハイブリッド環境	ハイブリッド環境	ハイブリッド環境	ハイブリッド環境	ハイブリッド環境	ハイブリッド環境	ハイブリッド環境
学術的インテリジェンス	学術的インテリジェンス	学術的インテリジェンス	学術的インテリジェンス	学術的インテリジェンス	学術的インテリジェンス	学術的インテリジェンス
ユーザーの行動と期待	ユーザーの行動と期待	ユーザーの行動と期待	ユーザーの行動と期待	ユーザーの行動と期待	ユーザーの行動と期待	ユーザーの行動と期待
人員配置	人員配置	人員配置	人員配置	人員配置	人員配置	人員配置

2013版： アセスメントとアカウンタビリティ

* 2013年高等教育法の更新

- ・ カレッジポートレイトの状況
- ・ NILOAの調査結果、課題
公立大学の半数以上が参加しているが、半数以上が項目を満たしていない。標準化テストが信頼性に欠けることがVSAへの参加意欲を削ぐ理由となっている
- ・ 全米研究会議：高等教育における説明責任の要請に応えるために考慮しなければならない要因が複雑である
- ・ 大学の価値を測る高価的な指標開発の困難さを指摘
- ・ エビデンスに基づく意思決定、改善のための評価活動
- ・ この領域の専門家の育成、専門知識の開発

2015版： 図書館が学生の成功に与える影響

- ・ アセスメントの実施
 - ・ **アセスメントライブラリアン**
Assessment in Action ACRILによるモデル事業
- ・ ティーチング&ラーニング
 - ・ **ティーチングライブラリアン (インストラクションライブラリアン、情報リテラシーライブラリアン)**
カリキュラム開発、科目開発に参加・支援・実施
FD担当者と協力して、教員のリサーチスキル開発のためのアクティブラーニングの応用、コースの再設計を支援
- ・ バーチャルへの対応
 - ・ **ウェブサイト開発の専門家の雇用**
- ・ コンピテンシーベースの教育
 - ・ 情報リテラシー領域、パッチプログラムの開発

2017版：新しい教育の形、 コンピテンシーベースの教育

- ・ 単位時間の蓄積や教育プログラムでの作業時間という考え方から、学習者が定義されたスキルや知識を習得しているかどうかを直接評価する考え方への変化
- ・ CBEモデルでは、学習者の学位取得の進捗は個別で自分のペースで行われるため、コストを抑えながらプログラムを迅速に進めることができる。
- ・ 2015年時点で600の大学が導入。
 - ・ 連邦財政援助の要件。
 - ・ 評価するために、複雑な知識やスキルを過度に単純化。
 - ・ 職業技能や職業訓練に焦点、教養教育が損なわれている。
 - ・ 低・中流階級をさらに経済秩序の下位に区別する。
- ・ 教員と協力のもと、情報リテラシーに関わるコンピテンシーをターゲットにしたプログラム開発。

2017版：情報リテラシーの問題

- ・ 『高等教育における情報リテラシーの枠組み』への移行(2016)
 - ・ 高等教育における学習成果としての情報リテラシー
 - ・ 連邦政府のK12 Every Student Succeeds Actに効果的な学校図書館プログラムを提供するための要件を記述
- ・ **図書館とフェイクニュース**
 - ・ 2016 大統領選挙: トランプ vs ヒラリー
 - ・ スタッフォードの研究：中学生から大学生は、ソーシャルメディア上の会話を分析したり、広告とニュース記事を区別したりする能力が著しく欠如している
 - ・ Buzzfeedの調査：選挙期間中最後の3ヶ月は、ソーシャルメディアに掲載されたフェイクニュースのトップ20の方が、主要19報道機関のウェブサイトのトップニュースより、多くのユーザーを引きつけた

2021版：広がるリテラシー

- ・ デジタルリテラシー
 - ・ ソーシャルメディア、フェイクニュース、デジタル情報
- ・ 科学リテラシー
 - ・ 新型コロナウイルス
- ・ プライバシーリテラシー
 - ・ プライバシーは技術である前に価値体系である
- ・ データリテラシーと倫理
 - ・ 例えば、学生データでは、学生は収集されたデータに対してほとんど、全くコントロールできない

2023版： ティーチング&ラーニング

- 教育
 - 図書館における教育も包括的実践，エビデンスベースの教育，批判的言説へと発展
 - オリエンテーションなどの言葉をより包括的なものに修正
- デジタルトランスフォーメーション
 - 技術部門とのコラボレーションの拡大
- コロナの不滅の影響
 - サービス提供や情報アクセスの主要な方法はオンライン分野でより強固に。
 - 十分な資源を持つ機関とそうでない機関の格差が明白に。
- 物理的スペース
 - 音響・視覚プライバシー，テクノロジーへの多様なニーズ

37

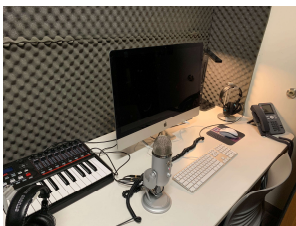
2015版：図書館施設

- 「2024年までに建物全体がアカデミックコモンズに変貌する」
 - アクセスと新たな知の創造プロセスを支援
 - アカデミックサポートをホスト
 - 物理的コレクションの残骸
 - 学生成功サービス、個人指導、ライティングセンターなどのハウジング、ワンストップ
- 最新のテクノロジーへのアクセスとサポート
 - * デジタルスカラーシップセンター
 - 高価な機器，専門知識，研究プロジェクトの計画支援，ソフトウェアの使用，メタデータ，知的財産問題，保存などのサービス
- 3Dサービス，メーカースペース，テクノロジーサービス
 - ビジュアライゼーション設備
- <https://www.lib.ncsu.edu/spaces/vr-studio>

38

2017版：学術図書館スペースの 計画と設計

- 「学術的学習空間に関するプロジェクト情報リテラシー報告書」
- 新しいスペースは、どのような種類の学術的学習活動を支援することを意図しているか



39

2019版：学生の学習環境

- コレクションと空間
 - 電子ブック・電子ジャーナルへの移行，現地コレクションの縮小。学習スペースとリテラシーの促進が主な理由。
 - メーカースペース・ラボの設置は増加中。
 - イノベーションスペース。
 - これらのスペースを管理するための専門家の配置
- 情報リテラシー教育
 - 教員は学生の情報スキルへの関心を高めている
- スチューデントサクセスデータ
 - ビックデータの分析

40

マネジメント

41

運営 Management

	2012	2014	2016	2018	2020	2022
学術コミュニケーション	デジタル・ヒューマンディ	デジタルカラシップ	協業社とベンダーの状況	ビッグデータ：選択と	ビッグデータ：選択と	何でもオープンにする
データキュレーション	図書館におけるオープンデータの地位	上記コンテンツプロバイダのプラットフォームの成長	オープンアクセスコレクションの成長とリソースと成長戦略	Research Data Services (RDS) 連携と成長	データ	
デジタル保存	デジタルリソース	研究データサービス (RDS)	研究データセットの取得、保存とマイコンプ、デジタルアクセス	社会政策、権利付コンテンツ、デジタルリソース、学術的デジタル保存	DRM関連の動向	
協業社による	データ	デジタルリソースとデータ管理	デジタルコミュニティと機関データ	学術的機関 (ワイルド)	データ利用	
協業社、アクセシビリティ、デジタルサービス	特定の目的	デジタルリソース	学術的、データ収集、権利付データ	非営利	学術的コミュニティとデータ (電子書) 其後の成長	
学術的機関のデジタルサービス	コンテンツサービスに基づく学術的	学術的機関の成長	学術的機関の成長とOER	学術的機関システムの成長	学術的機関システムの成長	
教育テクノロジー	デジタルコミュニティと学術的サービス	教育機関のための学術的サービス	デジタルコミュニティ	学術的機関	学術的機関の問題	
モバイル環境		モバイルワークにおけるモバイル環境	デジタルコミュニティ	学術的機関の成長	学術的機関の成長	
ユーザーの行動と期待		デジタルコミュニティ	デジタルコミュニティ	学術的機関の成長	学術的機関の成長	
人員配置		オープンな学術リソース	学術的機関の成長	学術的機関の成長	学術的機関の成長	
		学術的機関の成長	学術的機関の成長	学術的機関の成長	学術的機関の成長	

42

2013版： プロフェッショナルの未来

- 求められる内部破壊
 - 図書館員の仕事は、これまで行ってきたことをうまくこなすことから、**教育・研究における未充足のニーズに応える新しい機会を探究することへ移行。**
 - **革新と創造。**
- 研究データサービス
- コラボレーション・問題解決・アイデアのインキュベーションのためのワークスペース（リアル・バーチャル）と支援のデザイン

43

2019版：図書館の中立と キャンパスにおける言論の自由

- 大学：プラットフォームを求めるオルトライトのスピーカーがキャンパスで発言することは許されるべきかという議論
- 図書館でも：図書館における中立性の問い直し
 - * 図書館員があらゆる視点の資料への平等なアクセスを提供することを志し、不寛容な表現があろうとも全ての利用者の問い合わせを同じものとして扱うべきという考え方
 - 米国の政治情勢の偏向、ヘイトグループの可視化と再出現により、中立性は知的自由を維持するために不可欠な価値なのか？
 - * **クリティカル・ライブラリアンシップ**

44

2023版：スタッフィング

- 従来に加え、データや学習分析、研究データサービス、オープン教育資源、デジタル出版などの知識の習得がますます求められている
- これらに伴う新しい職種の採用
- 新たなポジション：
 - サステナビリティライブラリアン、
 - ユーザーエクスペリエンスライブラリアン、
 - EDIディレクター、
 - オープンエデュケーションリソースライブラリアン、
 - データ可視化（ビジュアライゼーション）ライブラリアンなど。

45

おわりに

- 教育・研究のグローバル化を背景にトレンドに日米の差はほぼない。
- 大学図書館の在り方は教育成果（人材）・研究成果（国益）に直結。
- 異なるのは**どう実現・実装するかの方法・仕組み**
 - **アクター：政府、資金提供機関、専門職団体、大学・大学図書館**
 - **大学図書館を「資産」として活用・強化する視点**

46